

(様式 3)

平成22年度学融合推進センター学融合研究事業 成果報告書

研究テーマ名称	東地中海地域の聖者信仰にみる、一神教徒の共存の様態
応募事業区分	女性研究者支援事業
申請代表者氏名	菅瀬 晶子

○ 研究状況報告

平成22年度は、レバノンおよびシリアにおける聖者アル・ハディル崇敬についての調査をおこなった。2月1日～4日はベイルートを中心におもにレバノン南部～中部の聖者崇敬の拠点を訪問し、聞き取り調査をおこなった。5日からは隣国シリアに移り、12日まで首都ダマスカス、および北部の都市アレッポを中心に、レバノンと同様の調査をおこなった。また、アレッポではメルキト派カトリック教会のアレッポ大司教座を訪問し、同地のキリスト教徒コミュニティについての簡単な聞き取り調査も実施した。

○ 当該事業年度において達成された研究成果

申請時に届け出ているように、本研究は申請者がこれまで大阪大学世界言語研究センターのプロジェクト「民族紛争の背景に関する地政学的研究」の共同研究員として、パレスチナ・イスラエルでおこなってきた研究を増補するためのものである。レバノンおよびシリアは、申請者がおもな調査地としているガリラヤ地方と、地理的にも歴史的にもたいへん近いが、イスラエルが建国された1948年以降、交流がほぼ途絶えている。ユダヤ国家イスラエルにおいて、「一神教徒が共有するもの」としての聖者崇敬は姿を消し、あるいは消滅の危機にさらされているが、いっぽうで48年以降に中東地域から移民してきたユダヤ人市民には受け入れられ、独自の発展を遂げるという事例がみられる。他方、特定宗派が優遇される状態にあるレバノンとシリア（レバノンではマロン派カトリック信徒、シリアではアラウィー派）においては、聖者崇敬もまた、近年みられるシーア派の急成長に強い影響を受けているさまが観察できた。

○ 本研究を基に発表した論文と掲載された雑誌名等のリスト（論文があれば添付）

3月25日に、カナダのトリニティ・ウェスタン大学のシンポジウム”Christians and the Middle Eastern Conflicts”にて発表をおこなった際、今回の調査の内容にも一部触れた。このシンポジウムの内容は、近い将来出版される。また、6月11日～12日におこなわれる、第45回日本文化人類学会研究大会においても、今回の調査内容を盛り込んだ発表をおこなう予定である。